企画協力
DRF

第5回　SPARC Japanセミナー

OAメガジャーナルの興隆

西薗由依（DRF, 鹿児島大学附属図書館）- **オープンアクセスジャーナルとは**
佐藤翔（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）-**日本人著者のOA出版動向**

ピーター・ビンフィールド（PLoS）

講演 ”PLoS ONE and the Rise of the Open Access Mega Journal”

Peter Binfield
(PUBLIC LIBRARY of SCIENCE)

＜パネル・ディスカッション＞
ピーター・ビンフィールド
アントワーン・ブーケ（NPG ネイチャー アジア・パシフィック）
山下幸侍（シュプリンガー）
大澤類里佐（DRF, 筑波大学附属図書館）
安達淳（国立情報学研究所学術基盤推進部）
土屋俊（大学評価・学位授与機構）

司会進行　近藤喜和（DRF, 奈良先端科学技術大学院大学附属図書館）

平成24年2月29日（水）13:00-17:00
国立情報学研究所・12階会議室
千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センタービル12階
※参加申込方法は裏面をご覧ください。各演題は変更になることがあります。最新情報はWebサイトをご覧ください。
※ピーター・ビンフィールド氏の講演には逐次通訳がつきます。

http://www.nii.ac.jp/sparc/

2003年、ブダペストオープンアクセスイニシャチブ(BOAI)はオープンアクセス実現のためのふたつの方策を提案しました。ひとつは、研究者が執筆論文をみずからインターネット公開する「セルフ・アーカイビング」です。 大学・研究機関が設置する機関リポジトリや、PubMedCentral等の政府系アーカイブなどの形で発展してきています。もうひとつは、無料で利用できる電子ジャーナルを創刊し、そこに論文発表を行うというものです。そうした電子ジャーナルは「オープンアクセスジャーナル」と呼ばれ、現在世界で7300誌を数えます(スウェーデン・ルンド大学調べ)。

オープンアクセスジャーナルの出版には、商業出版社も参入し、近年では「オープンアクセスメガジャーナル」と呼ばれる従来の学術雑誌とは異質のメディアを生み出しました。こうした電子学術情報流通環境の急速な展開の下で、今後、学術コミュニケーションの姿はどう変わっていくのでしょうか。

今回のSPARC Japanセミナーでは、オープンアクセスジャーナルの代表的な出版団体のひとつであるPUBLIC LIBRARY of SCIENCE(PLoS)から、PLoS ONE誌出版代表のPeter Binfield氏をお招きします。PLoS ONEは、2006年12月に創刊された自然科学全域を対象とするオープンアクセスジャーナルです。独特の査読・編集工程により、従来誌よりも素早く大量の研究論文を掲載することを特徴とし、 2011年には約14,000報の研究論文を1年間に出版しました。PLoS ONEの発展は学術出版界の注目を集め、2009年に" ALPSP Award for Publishing Innovation"、2011年には" SPARC Innovator Award"を受賞しました。現在では、他の出版社、学協会からもPLoS ONEと似た特徴をもつジャーナルが創刊されはじめています。

本セミナーでは、こうした「オープンアクセスメガジャーナル」を中心テーマとして、オープンアクセス出版の現在と未来について議論を深めます。多くのみなさまのご来場をお待ちします。

＜参加申込方法＞

本セミナーはどなたでも無料で参加できます。

参加を希望する方は、【第5回SPARCセミナー参加申込】と題し、氏名 ・所属 ・連絡先を明記のうえ、電子メールまたはFAXでお申込ください。

折り返し、【受付票】を返送しますので、当日ご持参ください。

ご連絡いただいた個人情報は、今後のセミナーのご案内と開催変更等の緊急連絡に使用いたしますのでご了承ください。

＜お申込・お問合せ先＞

国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術コンテンツ課図書館連携チームSPARC担当

電子メール: co_sparc_all@nii.ac.jp　　FAX: 03-4212-2375

主催:SPARC Japan(国立情報学研究所)　企画協力:デジタルリポジトリ連合(DRF)